

【資料】

平成26年度 林業研究・技術開発推進

関東・中部ブロック会議育種分科会

天野 里美¹

9月16日、林野庁第10会議室において、都県との連携による林木育種の推進を目的として、林野庁・森林総合研究所共催の林業研究・技術開発推進関東・中部ブロック会議 育種分科会を開催し、林野庁、育種センター、関東育種基本区の13の都県、関係団体等から43名が出席した(写真-1)。

林木育種事業を巡る動きについて

林野庁から、「苗木安定供給推進事業」、特定母樹の普及、花粉発生源対策の推進等について説明があった。

育種センターからは、特定母樹の普及に向けて原種配布の実績と予定の他、育苗・育林試験を行い、都県やエンドユーザーに向けて情報を提供していくことを説明した。

また、開発品種の普及のための品種説明会を開催したこと、今後も全国で説明会を開催する予定であること、ジーンバンクを効率的に運営するための検討会を開催したことについて報告した。

特定母樹の普及について

特定母樹の原種配布の流れと、関東育種基本区で指定されている特定母樹の特性データを示した。

林木育種事業の推進について

関東育種基本区では、マツノザイセンチュウ抵抗性品種の開発について、平成25年度は2県、26年度は3県で一次検定が実施され、二次検定は育種センターで行われたことを説明した。

エリートツリーについては、育種センターにおいて平成26年度にスギ、ヒノキ、カラマツの開発を行うこと、また、エリートツリーのうち指定基準に達すると考えら

れるものを特定母樹に申請を予定していること、さらに幹重量の多い品種について、平成25年度はカラマツを開発したこと等を説明した。

普及に関しては、関東育種基本区では花粉症対策品種の需要が多く、普及も進んでいる都県が多いこと、また、特定母樹については、現在茨城県に採種園が造成され、福島県と山梨県から原種配布の要望があったことを説明した。

また、福島県からは、これまで各都県から苗木の提供を受けて行ってきた海岸林の再生状況の報告があった。

林木遺伝資源の収集・保存についても、育種センターと県で行っている取組をそれぞれ紹介した。

提案要望事項

カラマツの造林地がある県では、現在カラマツの苗木の増産が求められていることから、カラマツの着花促進技術の開発についての提案要望があり、今後の研究の進め方について検討した。



写真-1 林野庁第10会議室で行われた育種分科会

¹あまの さとみ 森林総合研究所林木育種センター